



知事が行く!
突撃取材! Part2
～三重のひと～

第7回

～世代を超えて集える場所に～

少女まんが館 TAKI 1735

インタビュー詳細版

(聞き手)

三重県知事 鈴木 英敬

(お話いただいた方)

少女まんが館 TAKI 1735

しむら かずひろ
志村 和浩さん

しむら
志村 さくらさん



しむら さくらさん しむら かずひろ
志村 さくらさん 志村 和浩さん

知事 : お二人にお伺いします。オープンして1年、振り返っていかがですか。

和浩 : とにかく、たくさんの人と出会えました。その中には少女まんが館がなかったら出会えない人もたくさんいらっしゃいました。例えば、三重県出身のまんが家さんや、まんがを愛している方々、そういった人たちと出会えたことが一番の思い出ですね。

知事 : さくらさんは、いかがですか。

さくら : 少女まんがっていうだけで、大勢の人が来るんだなあと思って、びっくりしました。こんなに少女まんがが好きな方がいっぱいいるんだなって…。また、来場された方と、お話をするのも本当に楽しいですね。ご近所の方の中には「お茶ができる場所ができて、うれしいわ」なんて、まんがに関係なく立ち寄ってくださる人もいて、うれしくなります。

知事 : ご家族で東京から三重に移住されましたが、子育て環境を含めて、こちらでの暮らしはいかがですか。

和浩 : 東京では日本橋や世田谷などで暮らしていました。ここは、都会の中にいた頃と違い、季節を感じながら暮らせるところがいいですね。3人の子どもたちも自然の中で遊び回っており、小動物や虫をたくさん捕まえて帰ってきます。また、近くには農地が広がっていて、農家の方々とも仲良くさせていただいています。



「今日は、こんな野菜が採れたから食べてね」と、よく新鮮な野菜を持ってきてくださいます。作っている畑や田んぼを見学させてもらったり、作り方を教えてもらったりして3年前から米づくりにチャレンジしています。とてもいい感じで、家族でワイワイ過ごさせてもらっています。ただ、子どもが少ないのが悩みの種です。小学校も中学校もクラスが少ないんですね。同世代の子どもとコミュニケーションをとる機会が少ないことが多少、心配ではあります。

知事：なるほどね。この辺なら、四季折々の自然と触れ合えていいですね。さくらさんは移住してきて、いかがですか。

さくら：楽になりましたね。

知事：どんなところが楽ですか。

さくら：こちらに引っ越してくる前は、日本橋に住んでいました。交通量の多いオフィス街なので、家から一步外に出ると、子どもたちに車に注意するよう言い聞かせていました。家の中では、マンション住まいだったので、下の階に響かないように「飛んじゃダメ、走っちゃダメ」と、常に何か言っていないと暮らしていけませんでした。そういった小言は、言われる子どもも辛いと思いますし、言い続ける私たちも体力がいりますよね。でも、こちらに来てからは、家の中で思いきり走っても迷惑をかけません。そういった子どもへの接し方という点では楽になりましたね。

知事：お子さんにアレはダメ、コレもダメと言い続けるのは、しんどいですよね。

和浩：今では、家の中でドッジボールやバスケットボールをしているぐらいです。東京では考えられませんよね。

知事：それでは、さくらさんにお伺いします。多くの方が、少女まんがに影響を受けていると思いますが、さくらさんにとって少女まんがとは。

さくら：リフレッシュできるツールですね。子育ての合間に気分転換したいと思って、本を読もうとしても活字だとどうしても眠っちゃうんです。その点、少女まんがは絵が中心なので、物語の中に入りやすいんですね。いろいろと考えたり、やらなければいけないことがあったりして頭の中がいっぱいの時に、現実の世界から離れて少女まんがの物語の中に入りこむ。その間は、頭をリセットできるので、読んだ後は、いろんなことがはかどります。子育ての合間に、ちょっと読むだけでも気分が変わりますよ。

知事：なるほど。

さくら：忙しい方にこそ、お薦めです。

知事：忙しい方こそ、スイッチを切り替えるために読みましょうということですね。



さくら：ちょっとした時間でリフレッシュができる、非常に面白いツールだと思います。今はスマホでも、まんがは読めますが、紙をめくりながらだと、一層、その世界に入り込みやすく、気持ちの切り替えができます。ぜひ知事にもお薦めします。

知事：ありがとうございます。さて、和浩さんは、これまで地域おこしに携わってこられたことが、少女まんが館には地域おこしの観点から、どのような可能性があると思いますか。



和浩：この場所に来て読んでいただくことも大切ですが、外に飛び出して、いろんな場所に出かけていくことで、大きな可能性が生まれるんじゃないかと考えています。今も店の外にある移動販売車でコーヒーや地元のお菓子などを販売しているのですが、その車にまんがを積んで、キャンプ場や、集客に苦労している施設などに出向いていくのも、面白いんじゃないかと思っています。

知事：それ、いいですね。

和浩：例えばキャンプ場で、自然の中でまんがを読みながら、コーヒーや、おいしい食事をケータリングで提供すると、ゆっくり一日、家族一緒に楽しめる場所になると思います。また、キャンプ場なら、まんがを読みながら、お酒を飲んでそのまま眠ることもできますよね。三重県には山や川や海がたくさんありますので、自然の中で、まんがを読むという気持ちよさを、ぜひ体感してほしいです。

知事：松阪の、みえこどもの城に行ってもらってもいいかしれませんね。また、集客に悩んでいる施設に出向くというアイデアもいいですね。では最後に、少女まんが館 TAKI 1735について、さくらさんから県民の皆さんにメッセージをお願いします。

さくら：ご縁があって、こちらに住むことができ、またご縁があって少女まんがを譲っていただいた始めた少女まんが館ですが、多くの皆さんと関わり、お話をする中で、「昔は少女まんがをたくさん持っていたけれど、引っ越しや結婚など環境が変わるたびに処分したり、手離さざるを得なくなった」という人が本当に多いことが分かりました。こちらには、そんな思い出の一冊や、「これだ！」というまんがが必ず見つかると思いますので、ぜひ一度お越しください。また、今まで少女まんがに触れたことのない方にも来ていただきたいと思います。ここは少女まんが館とうたっているだけに、「内装がピンクでキラキラしていて、かわいらしいイメージなんじゃないのか、入る勇気がない」と心配する方も多いのですが、知事は入って来られて、いかがでしたか。



知事 : 正直、こちらに来るまでは、そういうイメージを持っていましたが、全く違いますね。

さくら : 私自身、かわいい内装は居心地がよくないので、落ち着いたトーンにまとめています。例えば、地元のおじいさんでも、ご飯を食べに来ていただける雰囲気になっているつもりなので、気軽に遊びに来ていただければと思います。



地元食材を使った人気オムライス

知事 : そうですね。男性や、読んだことのない人には、少女まんがって言うと、ピンクでキラキラしたイメージがつきますが、深いテーマの物語がたくさんありますからね。

さくら : そのような名作の他、恋愛もの、スポ根もの、ホラー系など、たくさんのジャンルがあるので、ビギナーの方や男性の方にも、お薦めできるものが見つかると思います。ぜひ、お越しください。

知事 : 少女まんがを読みながら、おいしい地元の食材で作ったオムライスを食べていただきたいですね。ありがとうございました。

一同 : ありがとうございました。



少女まんが館 TAKI 1735

三重県多気郡多気町丹生1735 ☎ 0598・67・4968

開館日時：水曜日～土曜日 11時～17時 入館料：無料

[少女まんが館 TAKI 1735](#) 🔍検索 ※「少女まんが館 TAKI 1735」の1735は住所の番地

※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。

※記載内容、写真の無断転載を禁じます。

※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570 三重県津市広明町13

☎ 059・224・2788 FAX 059・224・2032

E-mail koho@pref.mie.jp